

参考：令和４～８年度の事業実績と
「清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会」による評価

【森林部門】※（ ）内は目標値

①：環境保全林の整備

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
間伐等整備面積	(2,100) 1,139	(2,100) 1,462	(2,100) 1,357	(2,100) 1,274	(2,100) 2,100	(10,500ha) 7,332ha
事業費	347	465	416	427	799	2,454 百万円

【評価】労働力の確保ができなかったことなどにより、目標値の約７割の整備にとどまったが、間伐実施後の森林の８割で下層植生被覆率が向上するなど環境が改善しており、災害に強い健全な森林づくりに寄与した。



②：里山林の整備

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
危険木の除去箇所	(70) 76	(70) 51	(70) 36	(70) 46	(70) 70	(350 箇所) 279 箇所
バッファゾーン整備箇所	(40) 44	(40) 39	(40) 29	(40) 26	(40) 40	(200 箇所) 178 箇所
支障木の除去箇所				(13) 12	(12) 13	(25 箇所) 25 箇所
事業費	176	156	137	166	165	800 百万円

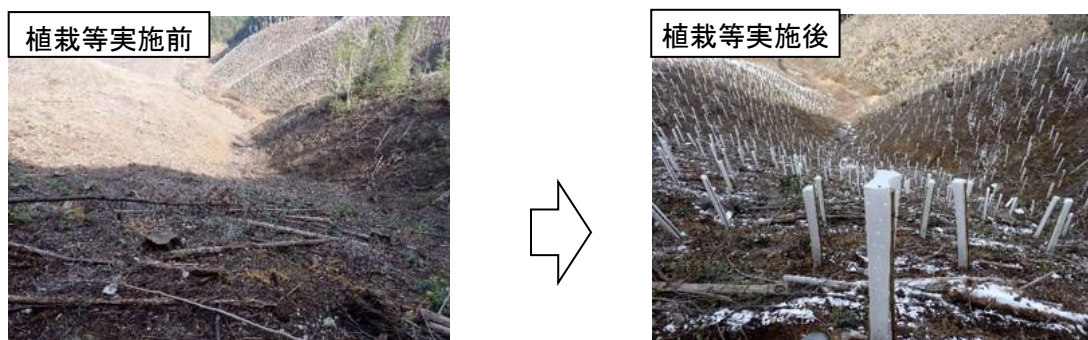
【評価】地域からの要望数が想定より少なかったため目標を下回ったが、要望のほぼ全てに対応した。実施箇所では倒木・停電リスクの低下や、野生動物による被害の軽減など、地域住民の生活環境の改善に大きな効果があった。



③：脱炭素社会に貢献する植栽

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
植栽等整備面積	(20) 3.76	(20) 29.60	(20) 33.81	(20) 20.66	(20) 20	(100ha) 107.83ha
G-クレジット研究会等	(9) 10	(9) 6	(9) 5	(9) 4	(9) 9	(45回) 34回
普及啓発事業等	(1) 1	(1) 2	(1) 2	(1) 2	(1) 1	(5回) 8回
事業費	18	62	69	47	58	255 百万円

【評価】環境保全林内の被害森林等の天然更新が見込まれない森林において、植栽を実施した。シカによる食害などの課題もあったが、目標を上回る面積を整備し、山地災害の発生防止やCO2吸収源創出につながった。



④：ぎふの木でつくる公共空間整備

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
施設整備	(6) 3	(6) 5	(6) 2	(6) 2	(6) 6	(30施設) 18施設
木製品の導入施設	(20) 18	(20) 30	(20) 18	(20) 21	(20) 20	(100施設) 107施設
事業費	45	110	25	67	74	322 百万円

【評価】教育福祉施設の木造化・内装木質化支援では、資材価格の高騰等により整備施設数は目標を下回ったものの、木製机・椅子等の導入支援では、目標を上回る実績を達成した。利用者等から木の温もりのある落ち着いた学習環境や、木製品への愛着醸成効果に関する高い評価を得た。



⑤：木質バイオマスエネルギーの利用促進

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
木質資源利用ボイラー	(1) 0	(1) 0	(1) 0	(1) 0	(1) 1	(5 台) 1 台
木質資源利用ストーブ	(30) 57	(30) 19	(30) 27	(30) 26	(30) 20	(150 台) 149 台
未利用材搬出量	(4, 500) 4, 353	(4, 500) 3, 446	(4, 500) 2, 866	(4, 500) 2, 541	(4, 500) 4, 500	(22, 500 t) 17, 706 t
事業費	22	12	13	13	18	79 百万円

【評価】木質資源利用ストーブは目標を上回る実績を達成し、継続的な需要が確認されている。ボイラーは実績がないものの、第4期中の導入に向けた相談が複数寄せられている。また、未利用材搬出量は目標を下回ったものの、活動地域は9市町に拡大しており、バイオマス利用の推進に加え、豪雨時の流木災害の防止といった防災面でも地域の安全に貢献している。



⑥：「ぎふ木育」の推進

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
施設入館者	(30, 000) 41, 331	(30, 000) 52, 716	(50, 000) 52, 147	(50, 000) 52, 604	(50, 000) 50, 000	(210, 000 人) 248, 798 人
ぎふ木育サポーター 累計登録者		(250) 242	(300) 300	(350) 349	(400) 399	(400 人) 399 人
木育教材導入施設	(60) 67	(60) 72	(60) 67	(60) 51	(60) 60	(300 施設) 317 施設
緑と水の子ども会議 等参加者	(6, 800) 7, 015	(6, 800) 7, 033	(6, 800) 8, 627	(6, 800) 8, 215	(6, 800) 6, 800	(34, 000 人) 37, 690 人
市町村への支援	(11) 8	(11) 10	(11) 11	(11) 11	(11) 11	(55 件) 51 件
事業費	100	119	173	117	212	722 百万円

【評価】施設入館者数や木育教材導入施設数、緑と水の子ども会議等参加者数など、多くの項目において目標を達成した。幼少期から、森や木に親しみ、地域の森林と暮らしのつながりを体感できる機会を提供することで、木材利用や環境保全に対する理解につなげる取組を推進した。



⑦：森林空間の活用促進

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
観光景観林の整備面積	(100) 59.71	(100) 62.31	(100) 28.72	(100) 28.24	(100) 28.60	(500ha) 207.58ha
森林公園等の施設整備	(8) 12	(8) 10	(8) 10	(8) 6	(8) 6	(40 施設) 44 施設
森のある暮らし推進 協議会累計会員	(60) 142	(70) 152	(80) 160	(90) 173	(100) 183	(100 者) 183 者
事業費	55	60	56	41	52	265 百万円

【評価】観光景観林の整備面積は、境界確認や所有者特定の困難な事業地の増加により目標を下回った一方で、森林空間を活用した施設整備では目標を上回る施設数を整備し、利用者の利便性向上や地域の魅力向上に貢献した。また、協議会累計会員数は森林サービス産業への関心の高まりを背景に早期に目標を達成し、主体的な活動が県内各地で広がった。



【環境部門】

①：野生鳥獣個体数管理

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
ニホンジカの捕獲数	(7,000) 6,300	(7,000) 6,699	(7,000) 7,406	(7,000) 6,931	(7,000) 7,000	(35,000 頭) 34,336 頭
ニホンザルの捕獲数			(324) 287	(345) 294	(345) 345	(1,014 頭) 926 頭
カワウ等の捕獲数	(1,000) 727	(1,000) 1,072	(1,000) 1,169	(1,000) 601	(1,000) 1,000	(5,000 羽) 4,569 羽
市町村等への技術指導	(10) 10	(10) 11	(10) 10	(10) 13	(10) 10	(50 件) 54 件
事業費	141	146	167	198	223	875 百万円

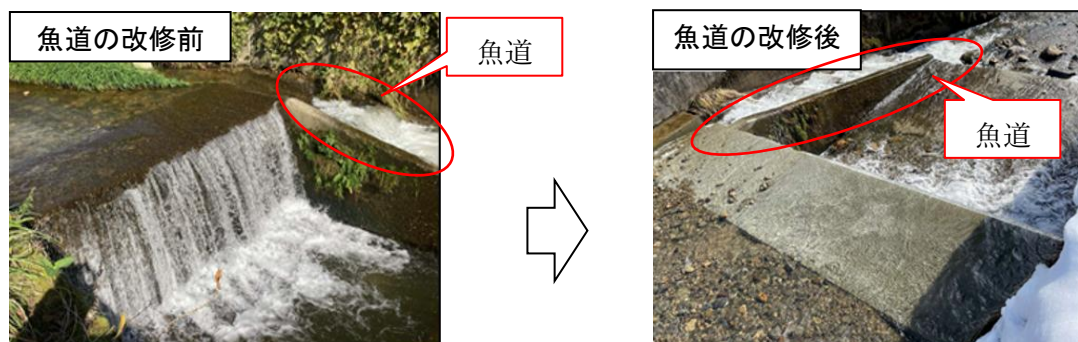
【評価】各捕獲目標を概ね達成したほか、研修会の開催や捕獲体制の整備など、人材育成にも取り組んだ。しかし、農作物被害は依然増加傾向にあり、更なる捕獲圧強化と支援体制の拡充などが課題である。



②：自然生態系の保全・再生

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
河川清掃	(20) 31	(20) 34	(20) 24	(20) 28	(20) 20	(100 河川) 137 河川
健全な魚道の割合	(80) 86.8	(80) 87.5	(80) 85.9	(80) 85.9	(80) 85.9	(80%) 85.9%
環境整備等に取り組む 地区	(4) 6	(4) 7	(4) 5	(4) 5	(4) 4	(20 地区) 27 地区
生物多様性保全に関する シンポジウム等の開催	(14) 28	(14) 32	(14) 20	(14) 23	(14) 14	(70 回) 117 回
支援団体・市町村	(24) 21	(24) 20	(24) 20	(24) 15	(24) 24	(120 団体) 100 団体
事業費	109	83	109	100	133	535 百万円

【評価】河川清掃・健全な魚道の維持・生態系ネットワークの再生など、多くの項目で目標を上回る実績を達成した一方、支援団体・市町村数は目標を下回った。シンポジウム等を通じた普及啓発や地域団体への支援を通じて、県民の生物多様性への理解促進に向けた取組を推進した。



③：環境学習・人材育成支援

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
体験プログラム等参加者	(500) 290	(500) 408	(500) 486	(500) 396	(500) 500	(2,500 人) 2,080 人
地域循環共生圏づくりプラット フォーム登録団体	(5) 0	(5) 0	(5) 10			(15 団体) 10 団体
事業費	19	20	19	15	18	92 百万円

【評価】体験プログラム等への参加者は目標を下回ったものの、参加者の自然環境や再生可能エネルギーへの関心向上と日常での行動変容につなげることを目的として取り組んだ。一方、地域循環共生圏プラットフォームは活用に広がりが見られなかったことから、関連事業との統合・整理を進めた。



【共通部門】

○：地域活動の促進

	R4	R5	R6	R7	R8[見込み]	計
活動実施団体	(50) 52	(50) 53	(50) 50	(50) 42	(50) 41	(250 団体) 238 団体
事業費	29	28	26	24	23	131 百万円

【評価】多様な主体による森づくり・川づくり活動が各地で展開され、環境保全活動の裾野が広がるとともに、地域に根付いた継続的な活動として発展している。



(注) 四捨五入の関係で、各年度の事業費と合計額が一致しない場合があります。